

観光の振興を目指す日光市の姿

1. 日光市にとっての観光の重要性

日光市では近年の高齢化や若者の田舎離れにより、人口減少が急速に進んでいるが、今後も更なる人口減少が見込まれている。そして人口減少による消滅可能都市とすら言われている。しかし日光市は世界遺産である二社一寺や豊かな自然といった豊富な観光資源を持っている。これが他にはない観光事業という日光市の強みだ。人不足に悩まされている今こそ、その強みを最大限生かし、他県や世界からの観光客の増加により、地域の活性化を目指していくべきである。

観光事業の現状

平成 23 年の東日本大震災により、平成 22 年の観光客が 11,373,865 人だったのに対し、平成 23 年の観光客数は 8,627,197 人にまで減少した。2,746,668 人もの減少であり、二社一寺でお土産屋を経営する友人の両親は「商売にならない」とまで言っているのを耳にしたのを覚えている。しかし平成 27 年には観光客は 10,745,000 人にまで増加し、着々と回復を見せているが、現状維持ではなく今よりさらに観光客を増やすためには、日光市規模でより観光したくなる魅力的な街づくりをする努力が必要である。日光市市役所観光部が平成 26 年 3 月に策定した「日光市観光計画」を参考に、日光市内の特に観光地となっている東照宮付近に住む者の視点から気づいたことを踏まえて、日光市の観光の課題、その打開策について述べていく。

2. 観光事業の課題と打開策

日光市の観光事業における課題は大小さまざまあると感じるが、ここでは私が最も大きな課題であると認識している 3 つの課題①公共交通機関の不便性②世界遺産である二社一寺に頼りすぎている③観光客への情報不足、について述べていく。まず①であるが、これは観光客にとって最も大きな不満となりうるだろう。日光市を訪れるための方法は車、電車、バスなどさまざまであるが、多くの人が電車やバスなどの公共交通機関を使うだろう。それにもかかわらず、日光市にアクセスするためのバスや、電車の本数が圧倒的に少ないのだ。例を挙げれば、JR 宇都宮駅から日光駅に向かう電車はおよそ一時間に一本しか運行しておらず、時間帯によっては一時間半に一本といった状況である。その上、日光から宇都宮へ向かう終電が 9 時 46 分と非常に早く、日帰りや東京まで帰宅したい観光客にとっては非常に不便であるだろう。もちろん滞在時間が短くなれば、日光市内で観光客が消費してくれる金額も少なくなる。また公共交通機関の不便さを懸念し、日光市を訪れるのをためらう人、一度訪れたが東京などの非常に便利な公共交通機関に慣れていることもあり、日光市へのアクセスのしづらさに嫌気がさし、再び訪れようとしなくなる人がいるかもしれない。公共交通機関の不便さが思うように日光市の観光客が増加しない、またリピーターの獲得につながらない理由の一つであると考えられる。しかし公共交通機関は市が工夫してどうにかできることではない。そこで宇都宮駅から日光市へ向かう電車が特にない時間帯には日光

市が、宇都宮と日光市を繋ぐバスを配置、遅い時間には日光市から新宿行きの直通バスの配置、さらには市が他県からのバスツアーの企画をするなどの対策をすることで公共交通機関の不便性をカバーできるのではないかと考える。次に②であるが、東京などで貼られている日光への旅行を促すポスターの写真の多くは二社一寺であり、時折テレビなどのメディアで日光市が取り上げられるときは必ず二社一寺が登場し、他の観光資源はあまり登場しない。さらに日光出身ではない人に SNS 上でアンケートを取ってみたところ、多くの人が日光＝二社一寺と答えている。二社一寺は世界に誇れる文化遺産であり、PR することはもちろん重要だとは考えるが、これのみが日光市のイメージとなってしまうと、リピーターの増加、観光客の滞在時間を長くすることは難しいだろう。日光は二社一寺以外にも豊かな自然や温泉などの観光資源がたくさん存在するからこそ、日光市観光部はそれらの PR も二社一寺同様活発に行い、メディアへの露出を図るのが良いと考える。さらに、アンケートを取ったところ日光市には食のイメージがほとんどないことが分かった。私は湯葉やしそ巻とうがらしなどの名産品がたくさん存在すると知っているが、市民以外の認知度はかなり低い。日光市に新たに食のイメージを追加することに成功すれば新たな日光市の魅力を発信でき、より一層の観光客の誘致につながるはずだ。さらには日光市での観光の目的が多様化し、宿泊をし、長時間日光に滞在する観光客の増加なども望める。三つ目に③観光客への情報不足、があるだろう。観光客が最もよく使う交通機関として JR 日光駅、東部日光駅があり、それらは日光市の観光の入口ともいえるが、インフォメーションは設置されているものの夕方 5 時と非常に早い時間にしまってしまう。夕方こそ二社一寺などのわかりやすい場所より、入り組んだ場所にあるホテルの場所などを探すためにインフォメーションを活用したい観光客は多いはずだ。特に外国人は英語の通じるインフォメーションセンターを求めており、私は夜頻繁に駅前でホテルの場所を見つけられないでいる外国人を見かけ私が案内することもある。そのたびにインフォメーションの不備さを感じる。観光客が多い場所であるのにこのような状況であるのは日光市の外国語が堪能な人材の不足もあるだろうが、まずは英語ができなくとも情報を提供できる人材を募り、情報を提供できるインフォメーションセンターの案内時間の延長が必要だろう。日光市がホームページでインフォメーションボランティアを募り、その人々への無料英会話講座の開講などの工夫を行えば、外国人と関わりたい、英語を学びたいといった意欲のある大人や学生が飛びつき、ボランティアの獲得はもちろん若者の能力育成にもつながるだろう。以上が私の考える日光市の観光事業における課題とその打開策である。日光市が住む人にとっても訪れる人にとっても心地がよく魅力的な市であることが最も重要であり、そのために観光事業は日光市が力を入れるべき重要な事業の一つだと考える。日光市に多くの観光客が訪れ、彼らに日光市の魅力を伝えることに成功すれば、観光客として日光市を訪れた人の定住化も期待でき、人口減少に歯止めをかけられる可能性もあり、様々な面でまだまだ観光事業に期待できることは多い。今後の日光の観光事業の発展には日光市民として大きく期待している。